



広 報
わ か さ

No.126 2015. **10**



CHALLENGE WALK 2015

子どもたちがキャンプをしながら3日間のウォーキングに挑戦する「チャレンジウォーク」。16回目となった今回は、26人の小学4～6年生とジュニアリーダー、シニアリーダーたちが、8月20日から3日間かけて46kmの道のりを力いっぱい歩きました。



Photo : Hinata Kohori





出発前はしっかり準備運動



いざ山ヒルの道へ！



箱館山ゴンドラ駅で給水

今年は滋賀県高島市にある「吹田市立少年自然の家」を出発し、箱館山へ登ってビラデスト今津でキャンプ。山を2つ越え、美浜町で一泊して中央公民館へゴールするという、登山道が中心の変化に富んだコースでした。

山ヒルに遭遇したり、足が痛くなったり、雨でぬれた山道を滑るように下ったり…雨に降られ、困難な場面に遭遇しつつも、誰ひとりとして大きな怪我やリタイアをすることなく、全員が完歩しました。

上級生は下級生を励ましながら歩き、初めて参加した4年生も最後まで元気いっぱいでした。参加したシニアリーダーの小堀向日太さんは、「極限状態でリーダーとしての力を発揮できるかが試せる貴重なイベントです」と話してくれました。

自然の中での体験を通じ、子どもたちは精神的な強さとたくましさを身につけたようでした。



今津総合運動公園から箱館山へ



ガスがかかった幻想的なユリ園…



毎年密着取材！MMネットさん



みんなでお昼♪



夕食のカレーを作ります！



さて、ご飯の炊け具合は…？



テント、ばっちり張れました

8/20 (9 km)

- 7:00 中央公民館にて結団式～バス移動
- 8:45 吹田市立少年自然の家を出発！
- 10:00 今津総合運動公園
- 10:30 箱館山ゴンドラ
- 11:00 ユリ園散策・昼食
- 12:30 出発
処女湖
- 14:30 ビラデスト今津到着～テント設営
夕食の準備～夕食
後片付け
- 19:00 森の交流館で入浴
カウンシルセレモニー
- 22:00 就寝



頼れるリーダーのお兄さんたち！



Photo : Hinata Kohori

小学校の体育館で朝ごはんです



8/21 (20 km)

- 6:00 起床～ラジオ体操
- 7:00 テント撤収～朝食
- 8:15 ビラデスト今津を出発！
菅谷～桜谷
シャクナゲ群生地
大谷山登山道
- 12:00 昼食
- 13:00 出発
栗柄谷線
折戸谷合流点
松屋
- 18:30 美浜町耳地区公民館新庄分館到着
- 19:00 夕食～後片付け
マッサージタイム
- 21:00 カウンシルセレモニー
- 22:00 就寝



Photo : Hinata Kohori

幻想的な山道をゆく…



Photo : Hinata Kohori

緑に包まれて休憩中♪



ゴールまで、「も〜うちよつと、ちょっこちょこ♪」

8/22 (17 km)

6:00 起床〜ラジオ体操

7:00 テント撤収〜朝食

9:15 耳地区公民館新庄分館出発！

10:40 子育て支援センター

12:00 美浜総合運動公園

昼食

13:00 出発

宇波西神社

生倉

16:00 中央公民館到着！

解団式

Good Bye!!!



ゴールでは家族がお出迎え！おかえりなさい！！



グループリーダーより完歩証贈呈



最後はみんなで輪になって「チェリー」を合唱♪



来年も参加してね〜！





夏の思い出トンカンカン♪

8月3日、西田公民館で夏休み子ども教室「木工教室」が開催され、2歳から小学生まで10人の子どもたちと保護者が参加しました。

今回は福井県嶺南振興局二州農林部の方が指導に訪れ、木の箱などを作りました。子どもたちは大人に手伝ってもらいながら、慣れない手つきで金槌を使って釘を板に打ち付け、最後に松ぼっくりや音符のステッカーなどでフタを飾り付けました。

会場にはトンカン、トンカンという金槌の音が響き渡っていました。子どもたちは完成した箱に何を入れようかと嬉しそうに話していました。

熊川の魅力、紹介しまーす！

滋賀県東近江市の五個荘金堂伝建地区「金堂まちなみ保存会」メンバーや金堂町の子どもたち約50人が8月2日、同保存会の20周年記念行事として熊川宿を訪問し、若狭熊川宿まちづくり特別委員会や熊川小学校の児童らと交流しました。

今回の交流会は、同保存会のメンバーが、昨年熊川で開催された伝建協議会全国大会で子どもたちの語り部に感銘を受けられたことがきっかけで実現しました。

まち歩きでは、お揃いののはつびを着た熊川小学校の子ども語り部が旧逸見勘兵衛家住宅（町指定文化財）や松木神社などの説明を行い、参加者は熱心に聞き入っていました。



デマンドタクシー試験運行始まる

8月3日から試験運行が開始されたデマンドタクシーの車両お披露目が、7日三方庁舎前で行われました。

若狭町デマンドタクシーと書かれたマグネットを張った車両4台が集結。森下町長から運転手に「高齢者をはじめとする交通弱者の移動手段として定着するよう、安全運転をお願いします」と激励の言葉を述べました。

このデマンドタクシーはご利用前に利用者登録が必要で、8月末現在で612人が登録されています。なお、10月31日までデマンドタクシーの愛称を募集中です。





迫力プラス！心を合わせて

「若狭ブラスフェスタ 2015」が8月23日にパレア若狭で開催されました。これは、毎年8月に町内で合宿をする大谷中・高校の吹奏楽部が、町の人にお世話になった恩返しにと、今年も美方高校、三方中学校、上中中学校の吹奏楽部員らと合同演奏を行いました。

美方高校の演奏で幕開け。3中学校の合同演奏、2高校の合同演奏、大谷中・高校の合同演奏などが次々に行われ、最後に全生徒と観客による「ふるさと」の演奏と合唱で締めくくられました。

今年初めて参加した塚本翔弥さん(上中中1年)は「先輩から、すごく大勢で演奏すると聞いていたけれど、実際に本当に大勢で迫力が出て驚きました」と話していました。

「人の優しさ」定住の決め手

国が掲げた地方創生をより具体的なものとして取り組むために、若狭町でも人口減少の克服と町の創生を目的とした「若狭町総合戦略」を策定することとしており、その一環として、町外からの移住者が多いかみなか農楽舎の関係者を集め、町長と人口減少対策についての意見交換会が8月4日に行われました。

同舎の卒業生の杉森芙美さんは、「夫婦で農業を始めたばかりのクリスマスの夕暮れ、遠くからこちらを見ていた人が、気づかない間に私たちの軽トラックにケーキを置いてくれて驚いた。町の人がいつも私たちを気にかけてくれるのが嬉しい」と例に挙げ、町の人とのふれあいや気遣いを話していました。



平成かかしはおしゃれさん

岩屋集落の子ども会夏季行事として8月7日、「かかし作り」が行われました。岩屋公会堂に集まった子どもたちは「岩屋農地環境を守る会」代表の吉田清隆さんに教わりながら、約2mのかかしを5体作りしました。

まず木の棒の先端に綿を取り付け新聞紙でくみ、防水のビニールとサラシを巻いた上に顔を描きました。腕部分となる木には服の袖を通して胴体にかぶせ、釘で固定。

子どもたちはみるみる人型になっていくカカシに帽子と服をコーディネートしながら、楽しそうに作業していました。完成したかかしは梅街道沿いの田んぼに立てられました。





年縞採取の現場、間近に！

8月9日、水月湖の年縞について学ぶ歴史環境講座「水月湖船上解説」が行われました。水月湖年縞の研究者中川毅教授（立命館大学）の案内で、水月湖を一巡りし、過去に年縞を採取した場所周辺で年縞についての説明を聞きました。

この日は、前日に採取した1mほどの年縞も披露され、採取してからすぐに酸化して黒くなっていくこと、どういった器具で採取するかなどについても説明を受けました。

船上解説には夏休みということもあって小学生の参加もあり、目の前にある、年縞が見える透明の筒に興味深く眺めていました。午後は、縄文博物館で中川教授の年縞についての講義があり、参加者は熱心に聞き入っていました。

子どもたちよる祈りのかたち

若狭町伝統文化シンポジウム「戸祝い・キツネガリ～来訪神 子どもたちによる祈り～」が8月22日、歴史文化館で開催され、町内外から約120人が参加しました。

近畿大学の野本寛一名誉教授による「子どもの力と神の姿」と題した基調講演では、若狭町の戸祝いとキツネガリを全国の来訪神行事と比較しながら、「戸祝いという呼び名は来訪神をお迎えすることの本質をあらわしている。祝いことばと曲節がしっかりと伝承されていることは素晴らしく、神さまを呼んで家に付着させる行事であり非



常に奥深い」と話しました。

その後、若狭町伝統文化保存協会の田辺長生会長や、民俗学者の金田久璋さんなどを交えたパネルディスカッションが行われ、最後に大鳥羽、海士坂、上吉田集落の子どもたちによる戸祝いの実演がありました。

歴史文化館企画展「若狭町の戸祝い・キツネガリ展」は10月12日まで開催中です。





球場でP R 若狭町来てね！

8月9日、美浜町民広場野球場でBCリーグ福井ミラクルエレファントの公式戦（対新潟アルビレックス戦）が行われました。

この日は「若狭町の日」となっており、プレイボール前には若狭町のP Rタイムがあり、夏から秋にかけてのイベント情報をP Rしました。また、始球式は森下町長が務めました。

5回裏終了時には、エレファント選手によるカラーボールの投入があり、見事キャッチした20名の来場者に梅干しがプレゼントされました。

球場の外でも若狭町の特産品販売が行われ、球場を訪れた人が立ち止まって購入していました。

「共生社会」の実現に向けて

8月28日、町内の小中学校教職員や教育関係者を対象とした教育研修会がパレア若狭で開催され、約180人の関係者が参加しました。

東洋大学文学部教育学科教授の滝川国芳さんによる「障害や病気のある子どものための特別支援教育」と題した講演が行われました。

講演では、学校教育の中で障害のある子どもの自立と社会参加を目指した「共生社会」の形成に向け、インクルーシブ（社会的包摂）教育システムの構築を図ることの必要性などが話され、参加者は課題の解決に向け真剣に耳を傾けていました。



ご先祖さま供養の音色響く

8月のお盆の時期を中心に、町内各地では、踊り念仏の一種で江戸時代初期から続くとおされるお盆行事「六斎念仏」が行われました。

瓜生集落と三宅集落の六斎念仏は国選択無形民俗文化財に指定されており、昔ながらの姿を保って伝えられています。

瓜生集落は2日間で約40軒を、三宅集落は3班に分かれて2日間で76軒をまわって六斎を打ち、先祖の霊を供養しました。

夕闇のなか、^{かね}鉦と締太鼓の舞打ちの音、念仏の音が響きわたりました。





いざ研究！「年縞」身近に

夏休み自由研究対策として、「福井の宝『水月湖の年縞』を学ぼう」と題した講義と実験が8月23日、縄文博物館で行われました。

はじめに小島学芸員によるスライドを使った解説で、水月湖年縞とはどんなものか、年縞の作り方などについて学びました。

水月湖の中で川の水と海水がどうなっているのかを確かめるため、透明な容器に2種類の水を流し込む実験では、海水の方が下に沈み、川の水と混ざらないことを目で見て確認しました。子どもたちは熱心にメモを取り、興味深そうに実験に取り組んでいました。夏休みの有意義な研究の時間になったようです。

波しぶきを上げ力強く

8月31日。時折雨がぱらつく世久見の浜で、まるで大量の魚が群れているかのように波しぶきを上げながら泳ぎ出すスイマー。

第3回を迎えた若狭路オープンウォータースイミング大会。烏辺島まで船で渡り、浜へ向かって泳ぐ1.3kmと、浜から烏辺島をぐるりと回って浜へ戻る3.8kmのコースに、合わせて438人の参加者が集いました。

これは、一般社団法人若狭路活性化研究所主催の催しで、町内をはじめ、近隣府県から駆け付ける人も含めた150人がライフセーバーや運営ス



タッフなどを務める大会で、世久見浜には応援や観客なども集まり、浜は人で埋め尽くされました。

〈3.8km コース優勝〉

男子：榮将也さん（兵庫県 46分19秒99）

女子：貴田裕美さん（群馬県 43分33秒22）

オリンピック出場

〈1.3km コース優勝〉

男子：岡崎満さん（京都府 15分43秒14）

女子：倉野真緒さん（愛知県 16分13秒28）

古墳からロマンざくざく



花園大学考古学研究室の方々を中心となり、8月6日から約1ヶ月間、藤井集落にある藤井岡古墳の発掘調査が行われました。この調査で確かめられた葺石（古墳の斜面を覆う石）と埴輪は三方地域では最初のもので、新しい古墳築造技術が大和政権から導入されたことがわかりました。同古墳は当地域の重要な古墳であることが判明し、古墳時代における若狭の重要性がさらに高まりました。

8月29日の住民を対象にした現地説明会には、約50人が参加。発掘の様子や出土した埴輪などを間近で見ることができ、参加者は調査員に質問しながら古代のロマンに思いを馳せていました。



ピアノに合わせてのびのびと

8月26日、NHK ラジオ第一放送で全国に生中継される「ラジオ体操・みんなの体操会」が若狭さとうみパークで開催され、約1200人が参加しました。若狭町での開催は初めてとなりました。

約20分間のリハーサルの後、6時30分、本番の開始とともに、ラジオ体操テーマ曲の合唱がこだましました。早朝の爽やかな青空のもと、会場に響くピアノの生伴奏に合わせてのびのびと体を動かしました。

気山小学校6年の谷口悠介くんは、「今まで集落でしかラジオ体操をしたことがなかったけれ



ど、大勢の人で体操できたし生放送されるし凄い」と笑顔で話してくれました。

一家で参加した、三田の北川雅人さん・沙央里さん・陽登くん・大晴くん・夏帆ちゃんファミリー。「保育園に貼ってあったポスターを見て、前日に参加することを決めた。夏休みのラジオ体操には一度も参加出来てなかったが、今日は家族みんなで参加出来て良かった」と話してくれました。



Mariko Sano



Kaoru Hatanaka





うなぎ赤ちゃん元気に育ってね

8月11日、梅の里保育園の園児が海山漁業協同組合のうなぎ稚魚の放流を手伝いました。園児が放流を手伝うのは、地元の子どもたちにうなぎのことを知ってもらおうと同漁業協同組合が始めたもので、今年で3回目となります。

今回は40kg約800匹の稚魚が用意され、参加した10人の園児たちは数匹ずつバケツに入れ、水月湖にそっと放流しました。

また、福井県内水面漁業協同組合連合会の安達辰典さんから、うなぎは遠い南の海で生まれた稚魚がはるばる泳いでくることが、放流した稚魚は3年ほどで大きくなることなどを教わりました。

梅シロップづくりと簡単料理

9月2日、特産品を子どもたちに知ってもらい地産地消を推進する「梅シロップと梅を使った料理体験」が三宅小学校で行われました。

この日は、三宅小学校クッキングクラブの11人が食育地産地消グループの橋本幸美さんと産業課担当者から、冷凍された紅映を使った梅シロップづくりを教わり、4つのグループに分かれて砂糖と一緒にびん詰めしました。

また、梅干しを叩いて、つぶしたじゃがいもに混ぜ入れたマッシュポテトの茶巾絞りも作り、慣れない包丁とガス調理に苦心しながらも作り上げ、「おいしい!」とほおばっていました。



スポーツで親睦深めよう

9月6日、野木小学校体育館で、野木地区体育協会主催の野木スポーツフェスタが開催されました。

開会式では、2018年開催の福井国体応援ソングにあわせた「はびねすダンス」を、地元保育園児・小学生児童などと参加者が、はびりゅうくんと一緒に踊ってオープニングを彩りました。

悪天候のため、予定されていたゲートボールとグランドゴルフは中止となりましたが、体育館ではソフトバレーボールの参加者60人が共に汗を流し親睦を深めました。



気山の「ヨイとこ」曲になったよ

9月4日、気山小学校ヨイヨイ音頭の曲が完成し、発表会が開かれました。

音楽グループ「一途」が作ったこの曲は、事前に一途から出されたアンケートに、気山小学校児童とその保護者や、見守り隊などの地元ボランティアらが答えたものを元に、一途のメンバーが気山を巡って感じたことを加えて歌詞にし曲を付けたもので、気山地区の良いところがふんだんに織り交ぜられた歌となっています。

発表会では、一途のメンバーと児童・保護者らが元気に曲に合わせてジャンプをしたり、声を合わせて歌い、会場は一気に一体となりました。

すぐに歌を覚えた児童と一途の歌声が、体育館中に響き渡っていました。



Photo:Yukiko Shikata

夏の最後の思い出を…

夏休み最後の週末となった8月29日。若狭町女性の会ときらやま地域づくり協議会共催の夕涼み会が中央公民館前の駐車場で開催されました。

オープニングは浴衣を着た女性の会会員による2018年開催の国体応援ソングに合わせて踊る「はぴねすダンス」で幕開けし、鳥浜伝統文化を守る会の愛宕太鼓の演奏が続きました。

会場には、女性の会各地区や商工会青年部、女性ネットワークなどの団体が準備した屋台が並び、たくさんの家族連れが射的やスーパーボール



すくいなどのゲームや、やきとりなどの飲食で楽しみました。

夕暮れとともに盆踊りも行われ、流行踊りの他にシテナ踊り、本郷踊り、上中音頭など、地元根ざした踊りでも大きな輪ができていました。



■住民リポーターさんの似顔絵：岡本サキン

■住民リポーター随時募集中！お気軽にご連絡ください。

NPO わかさ Reco.Tel: 050-3701-8341 Fax: 050-3730-7496

Facebook ページ：「わかさのススメ」